

株式会社東京精密 2021年度(2022年3月期) 第2四半期 決算説明会

2021年11月2日

決算説明会 当社 出席者：
代表取締役社長CEO 吉田 均
代表取締役副社長COO 木村 龍一
代表取締役CFO 川村 浩一

◆ 将来の事象に係わる記述に関する注意

- ▶ 本資料に記載されている情報、ならびに口頭で提供される情報は、現時点で入手可能な情報をもとに、当社が合理的であると判断した一定の前提に基づいております。
- ▶ これらは、市況、競争状況、半導体業界ならびに自動車関連業界等の世界的な状況を含む多くの不確実な要因の影響を受けます。
- ▶ 従って、今後の当社の実際の業績が、本資料に記載されている情報と大きく異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

◆ 表記データ・用語について

- ▶ 注記がある場合を除き、**半導体製造装置セグメント**を「半導体」、**精密計測機器セグメント**を「計測」、また**親会社株主に帰属する当期純利益**を「当期純利益」と記載します。
- ▶ 記載されている金額や比率の情報は、注記がある場合を除き、億円またはパーセントによる要約表示を行っております。その為、内訳の計が、合計と一致しない場合があります。

◆ 監査について

- ▶ 本プレゼンテーション資料は、監査法人による監査の対象外です。

次第

- ◆ 2021年度 第2四半期 業績説明
- ◆ 2021年度 通期業績予想
- ◆ 中期目標に関して
- ◆ 質疑応答

2021年度 第2四半期 連結業績



半期業績(億円)	2020年度		2021年度			
	上期	下期	上期	予想対比	前半期比	前年同期比
受注高	396	774	885		+14%	+123%
売上高	451	520	615	+25	+18%	+36%
営業利益 (営業利益率)	63 (14%)	93 (18%)	129 (21%)	+21	+39%	+106%
経常利益	64	95	130	+22	+37%	+103%
当期純利益	47	75	96	+21	+28%	+105%

四半期業績(億円)	2020年度				2021年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	前四半期比	前年同期比
受注高	187	210	351	423	417	468	+12%	+123%
売上高	211	240	216	304	289	325	+12%	+35%
営業利益 (営業利益率)	32 (15%)	31 (13%)	30 (14%)	62 (20%)	60 (21%)	69 (21%)	+16%	+123%
経常利益	33	31	29	65	60	70	+16%	+127%
当期純利益	25	22	23	52	44	53	+21%	+139%

➤ 半導体製造装置の売上が寄与し、前年同期比 増収増益

- 2021年度 第2四半期累計(上期)業績は 記載の通り
- 活況な半導体製造装置事業(以下 半導体) の売上増加に加え、
昨年度 軟調だった計測機器事業(以下 計測)も 回復に転じた結果、
売上高は前年同期比で 30%強の増加、利益は倍増となった

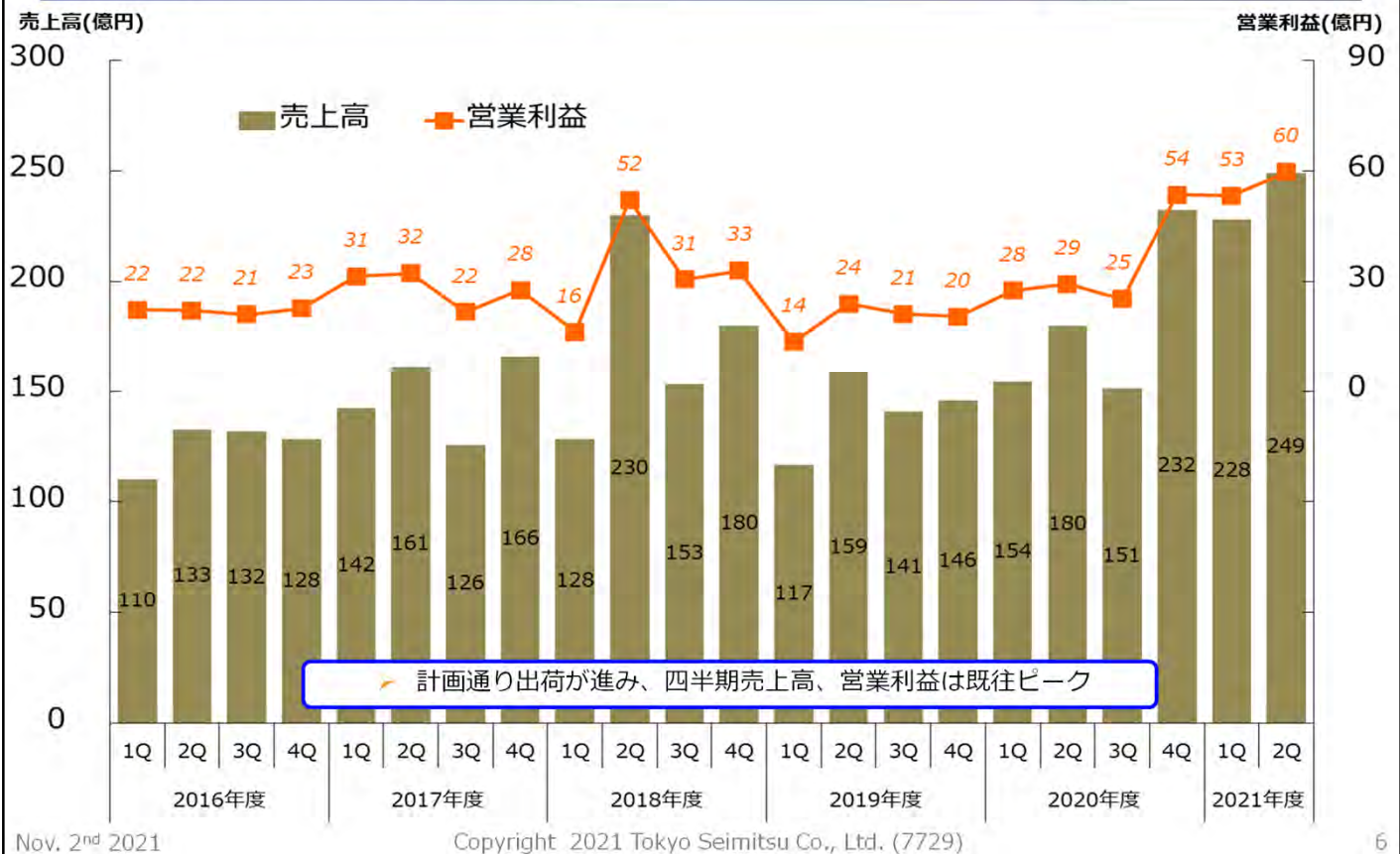
セグメント業績 (半期：億円)	2020年度		2021年度			
	上期	下期	上期	予想対比	前半期比	前年同期比
受注高	288	643	725		+13%	+151%
売上高	334	383	477	+7	+24%	+43%
営業利益 (営業利益率)	57 (17%)	79 (21%)	113 (24%)		+43%	+99%

四半期業績(億円)	2020年度				2021年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	前四半期比	前年同期比
受注高	129	159	287	357	339	386	+14%	+142%
売上高	154	180	151	232	228	249	+9%	+39%
営業利益 (営業利益率)	28 (18%)	29 (16%)	25 (17%)	54 (23%)	53 (23%)	60 (24%)	+12%	+109%

- ▶ 上期受注高・売上高・営業利益ともに半期ピーク更新
- ▶ 前年度下期からの堅調な受注環境が継続

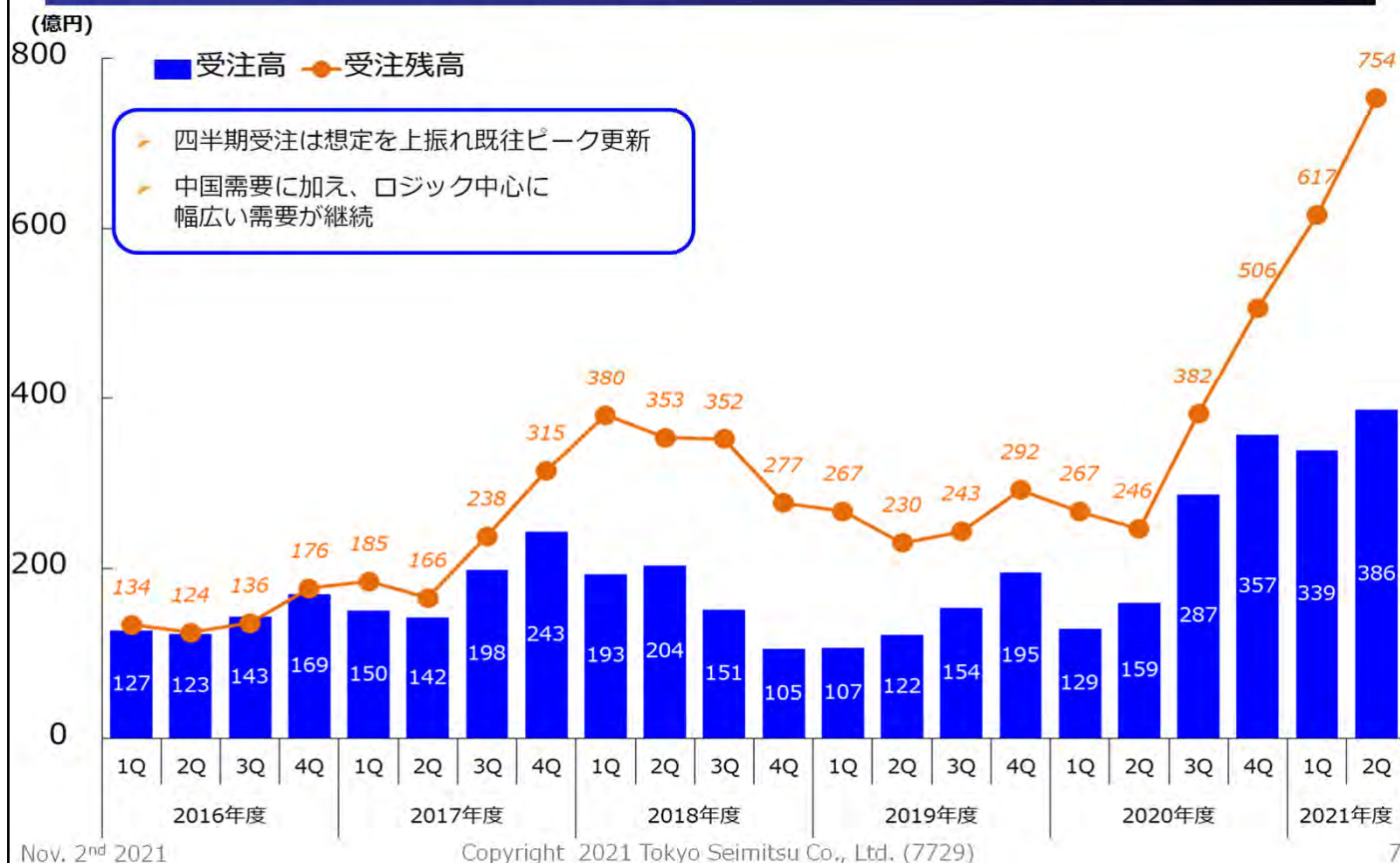
- 半導体 2021年度上期 受注高、売上高、 営業利益はそれぞれ半期ピークを更新
- 前年度下期から続く 強い引合は この上期も継続
生産キャパシティの拡張に取り組んだ結果、 売上が増加
営業利益率も24%へ上昇

半導体 - 売上高・営業利益



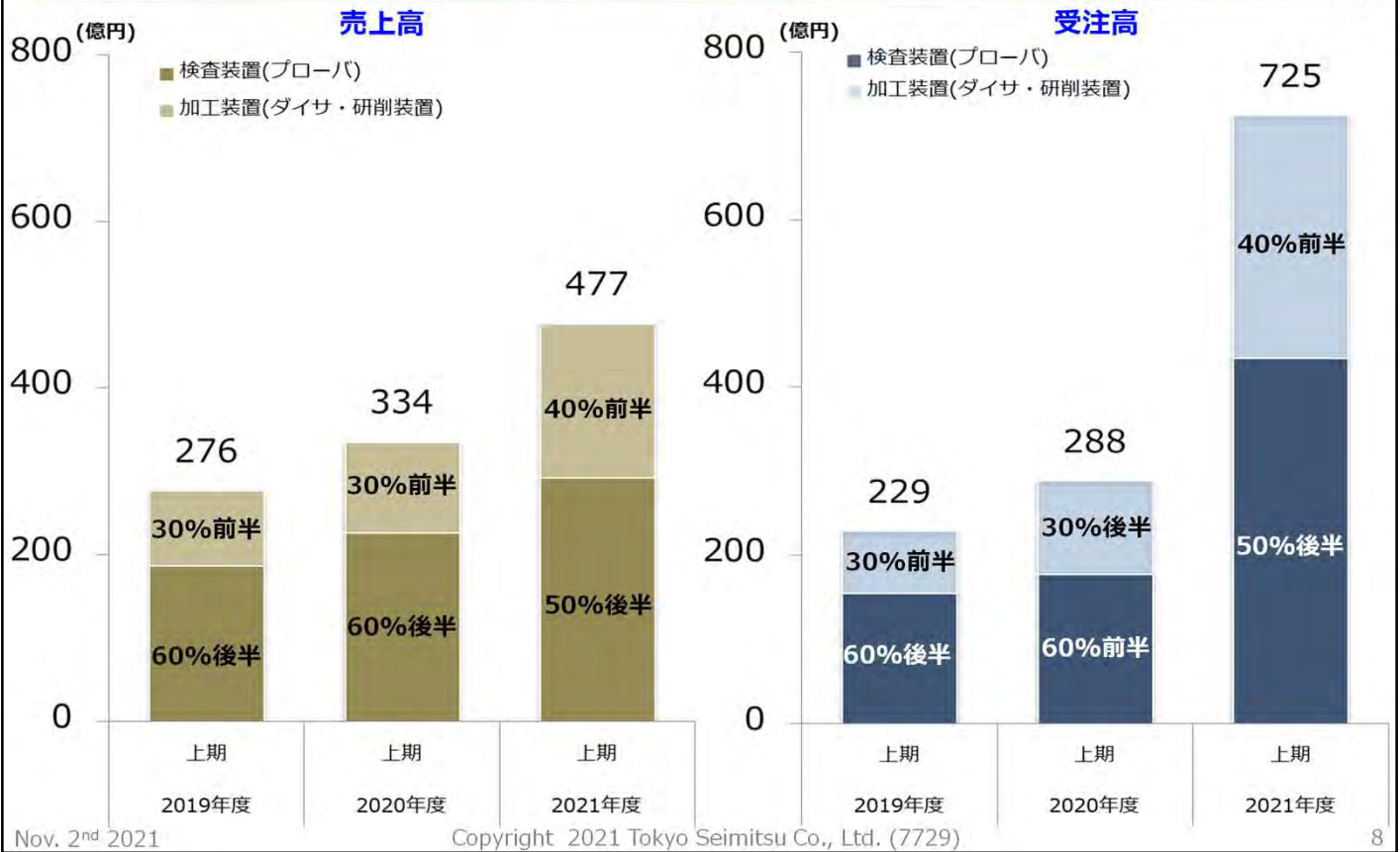
- 第2四半期 (以下 2Q) は 部材逼迫や、納入タイミングのずれなどが見られたが概ね 計画通りの出荷となり、 売上高、営業利益 とともに四半期ピークを更新

半導体 - 受注高・受注残高



- 当社はこの上期に受注調整が起こりえると想定していた
- 実際は 引合旺盛な中国に加え、ロジックデバイス向けを中心に幅広い需要があり四半期ピークを更新する受注高となった
- 受注残高も高水準となっており、生産高の拡大が重要

半導体 - 製品別動向



- 2021年度上期の製品別比率は、売上高(左側)・受注高(右側)ともに検査装置(プローバ)5割後半、加工装置(ダイサ・研削装置) 4割前半
- いずれも加工装置の構成比が増えている

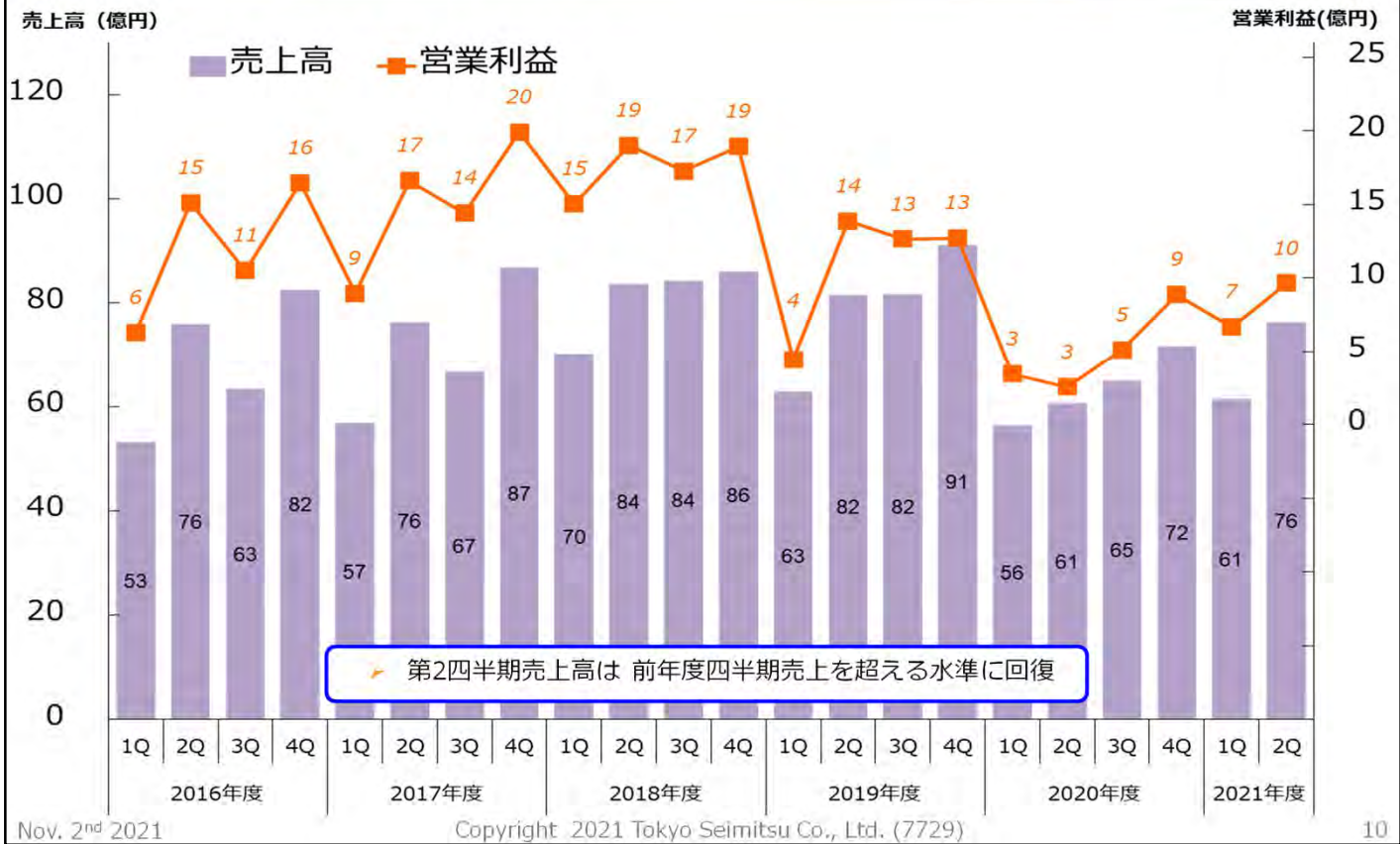
セグメント業績 (半期：億円)	2020年度		2021年度			
	上期	下期	上期	予想対比	前半期比	前年同期比
受注高	108	131	160		+22%	+49%
売上高	117	137	138	+18	+1%	+18%
営業利益 (営業利益率)	6 (5%)	14 (10%)	16 (12%)		+14%	+172%

四半期業績(億円)	2020年度				2021年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	前四半期比	前年同期比
受注高	58	50	64	67	79	82	+4%	+63%
売上高	56	61	65	72	61	76	+24%	+26%
営業利益 (営業利益率)	3 (6%)	3 (4%)	5 (8%)	9 (12%)	7 (11%)	10 (13%)	+45%	+278%

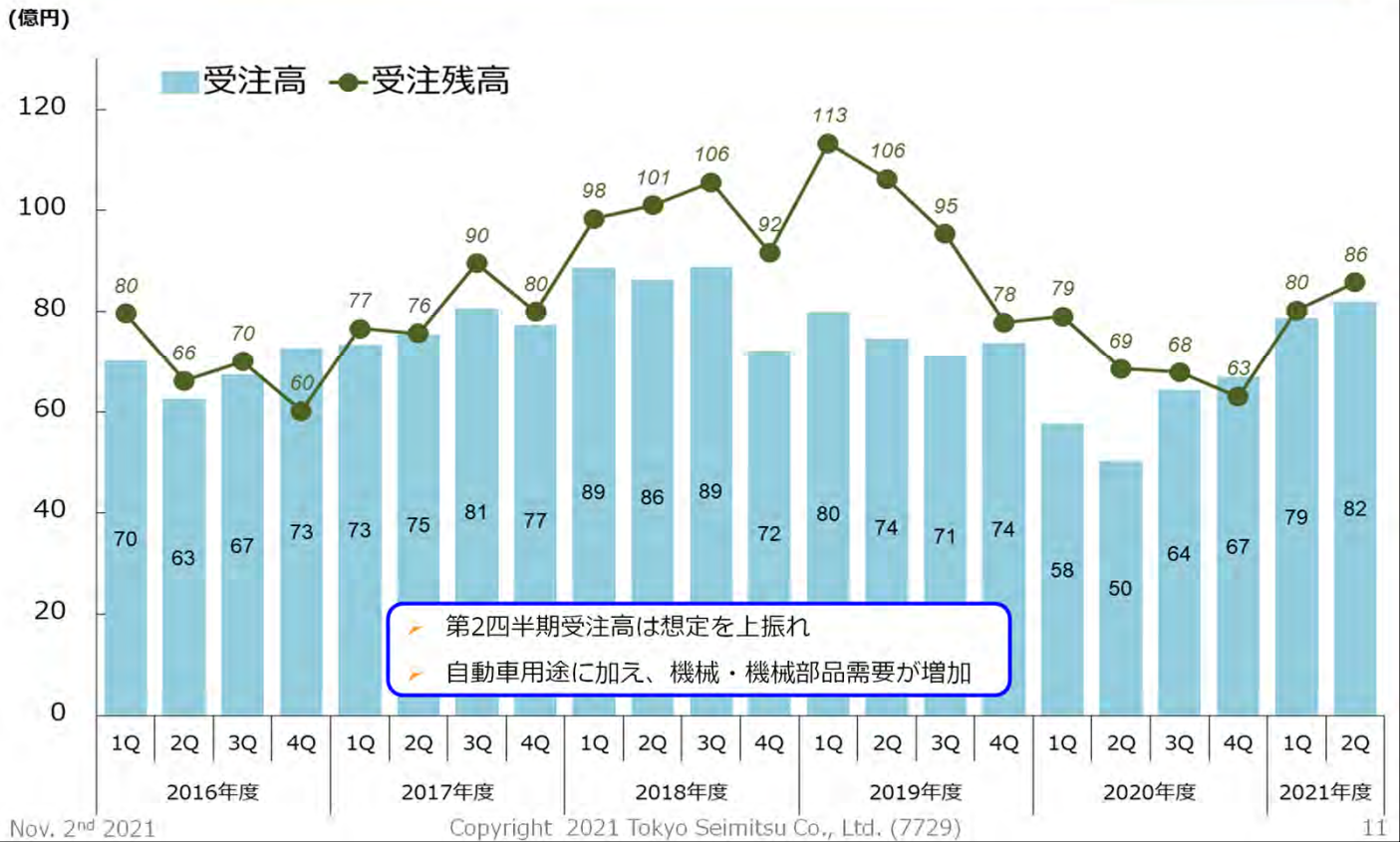
- モノづくり全般に需要は緩やかに回復、受注も回復基調

- モノづくり需要が緩やかに回復するなか、計測機器への投資も戻ってきている
- 受注高は、前年度第2四半期を底に、回復基調を維持

計測 - 売上高・営業利益



- 2Q売上高は 1Q比で増加
- コロナの影響を受けた前年度の四半期売上高を超える水準に回復



- 2Q受注高は想定を上振れ、 2019年度 第1四半期以来の80億円台の受注
- 自動車用途に加え、 精度が要求される半導体製造装置や
その関連部品の測定など 機械や機械部品関連の需要が増加したため

計測 - 製品別動向



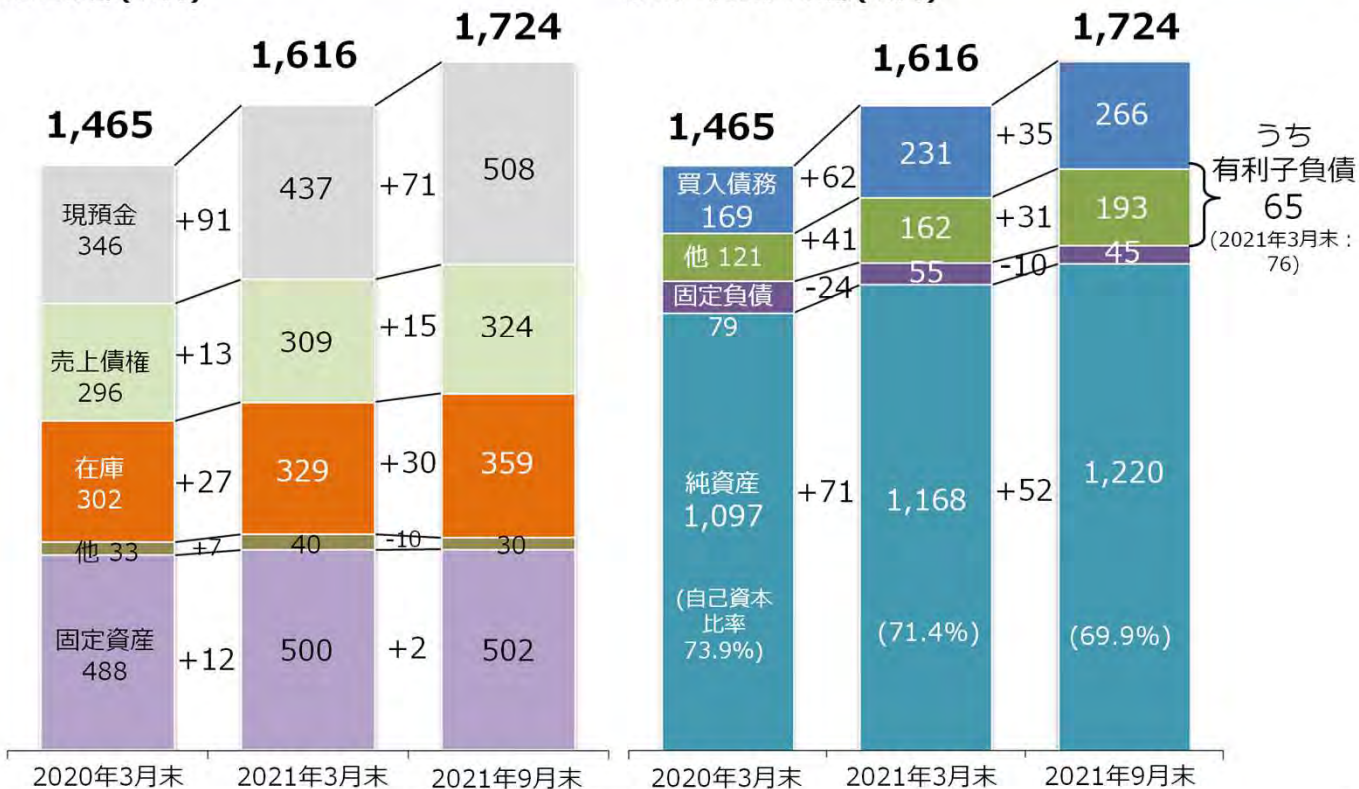
- 2021年度の製品別比率は、売上高(左側)、受注高(右側)ともに汎用計測 約6割、自動計測・充放電システム 約4割

貸借対照表



資産の部(億円)

負債・純資産の部(億円)



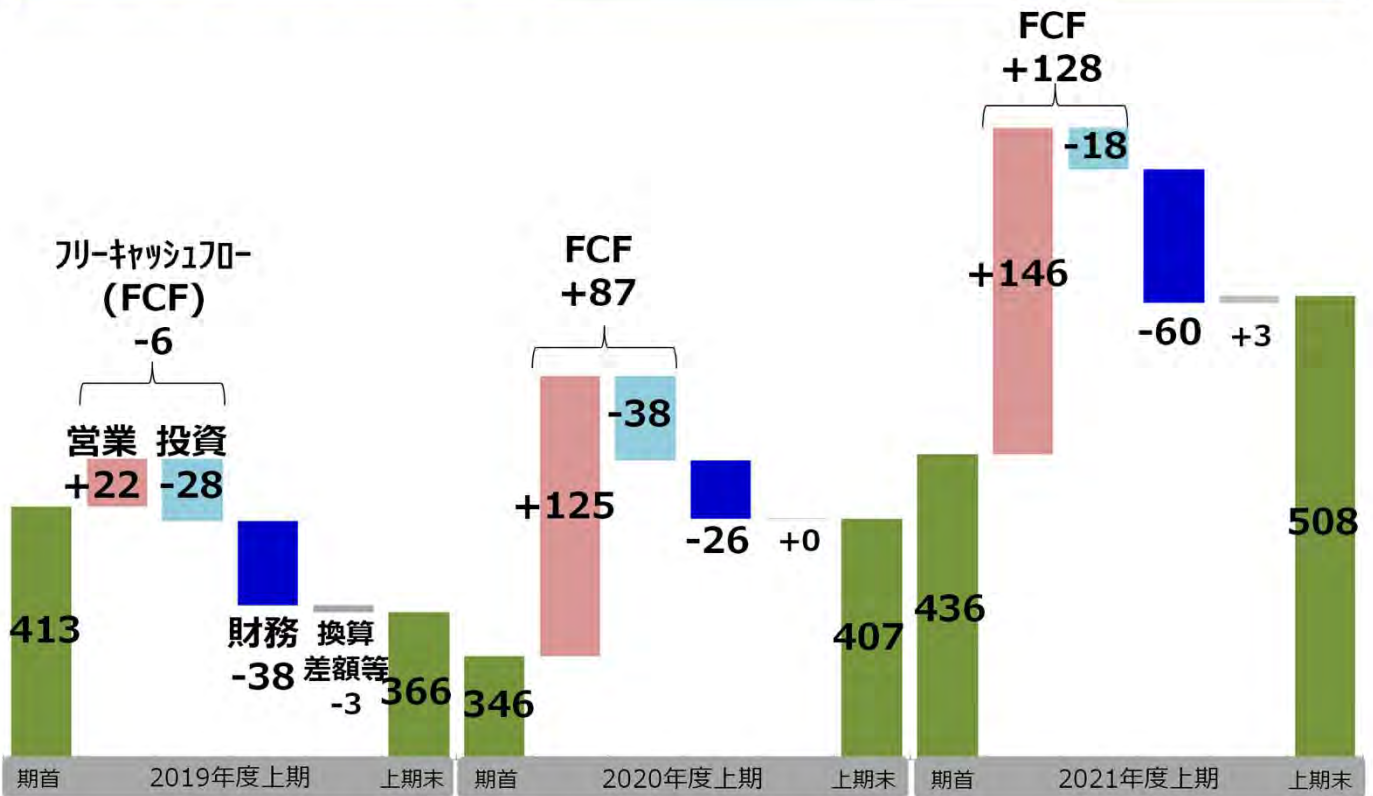
Nov. 2nd 2021

Copyright 2021 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729)

13

- 2021年 9月末の総資産は1,724億円(3月末比 +108億円)
- 自己資本比率は69.9%、有利子負債残高は65億円

キャッシュフロー(CF)



Nov. 2nd 2021

Copyright 2021 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729)

14

- 2021年度上期キャッシュフロー(以下CF)
営業CFは +146億円、投資CF -18億円、結果 フリーCFは+128億円
- 財務CFは配当支払、自己株式取得等により、-60億円
- 9月末 現金等の残高は508億円

キャパシティ拡充(半導体)

- 美山工場：フル稼働継続
- 飯能工場：建設着手
- 土浦MI棟：半導体事業にも活用



キャパシティ拡充 (計測：土浦MI棟)

- 2020年5月稼働開始
- 半導体製造装置生産にも活用



MI: *Monozukuri* Innovation

効率化

- ERPによる
業務改善・効率化
取り組み継続

アプリ対応強化 (台湾新アプリセンター設立)

- 2021年3月稼働開始



アプリ対応強化 (大阪計測センターリニューアル)

- 2020年1月稼働開始



- (左上) 半導体 キャパシティ拡充について
 - 飯能工場：この程、建設着手 (2022年度完工計画)
 - 土浦MI棟：半導体生産にも活用、このほど8インチプローバ生産を開始
- 2021年度 半導体のキャパシティは
 - 様々な取り組みにより、2020年度比で 4割増の見込み
 - 飯能工場稼働時には、同 倍増となるよう 準備を進めている

子会社の不正行為：再発防止策と進捗



◆ 特別調査委員会の調査/提言を受けた再発防止策について全ての対応が完了 ⇒ 効果検証実施中

会社	分野	施策(要約、TSE = 東精エンジニアリング)	対応中	完了
T S E	ガバナンス	取締役会の体制、監査役監査の見直し等		◎
	内部統制	購買手続き、販売に係る異例取引手続き、海外子会社の社内規程の整備		◎
	コンプライアンス	統括責任者/統括管理者を設置、コンプライアンスの周知徹底 全役職員へのコンプライアンス研修の実施		◎
	モニタリング 体制	販売案件処理/運営点検の組織新設、海外子会社モニタリング強化、 内部監査体制の強化および間接部門人員の拡充		◎
	社内環境、コミュ ニケーション	国内外全社員へ内部通報制度の趣旨/内容の再度周知徹底 社員の意見、声を吸い上げられる環境の整備		◎
当 社	ガバナンス	コミュニケーション強化を通じた各子会社の経営/事業課題の適時適切な解決 子会社の経営/事業課題が自発的/能動的に報告される環境づくり TSE社への取締役派遣、綿密に連携して取り組む体制を構築		◎
	コンプライアンス	グループ全社員にコンプライアンス重視のトップ方針を経営陣から改めて発信 統括責任者/統括管理者を設置、コンプライアンスの周知徹底 全役職員へのコンプライアンス研修の実施		◎
	モニタリング 体制	各子会社がガバナンス、コンプライアンス、モニタリング 取組みの確認/支援 TSEの内部監査/監査役監査内容を共有、改善策フォロー、TSE内部監査		◎
	社内環境、コミュ ニケーション	子会社と相互に情報共有を行って課題を解決する 双方向型のマネジメント方針を当社経営陣から発信		◎

Nov. 2nd 2021

Copyright 2021 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729)

16

- 3月に開示した 子会社での不正行為の再発防止策の進捗は記載の通り
- 子会社 東精エンジニアリングにおけるガバナンス体制の整備、
当社における 子会社コミュニケーションの強化、
グループ全体でのコンプライアンス重視の方針を浸透させる、など
一連の実務対応は完了
- 現在、運用状況のフォロー ならびに 効果検証を行っている

両事業セグメント 新製品のリリース

ブローニングマシン
AP3000/AP3000e



高スループットを実現

全自動高剛性研削盤
HRG3000RMX



短時間でダメージがない加工を実現

表面粗さ・輪郭形状測定機
SURFCOM NEX
(DX2/SD2)



高効率、高汎用性、高信頼性を兼ね備えた精密計測機器

真円度・円筒形状測定機
RONDCOM NEX
(DX2/SD2)



独 JENOPTIK社製シャフト測定機の販売、サービス提携基本合意

持続可能な社会の実現に向けた取り組み実施を目的としたサステナビリティ委員会を新たに設立

優先課題としてTCFD※プロジェクト開始

※TCFD: 気候関連財務情報開示タスクフォース

Nov. 2nd 2021

Copyright. 2021 Tokyo Seimitsu Co., Ltd. (7729)

光学式シャフト形状測定機
Shaftcom C-Series



高速、高精度測定を実現

- 当社ウェブサイト等で開示した 上期のその他トピックス
- 両セグメントとも、新製品を多数リリース
- 先ごろドイツのJENOPTIK社製 シャフト測定機の日本国内独占販売、サービス提携について基本合意、先月の展示会で製品を参考出品
- 持続的な社会の実現に向けた 取り組みを行う会社となるべくサステナビリティ委員会を設立、
- サステナビリティ優先課題として TCFDプロジェクトを立ち上げ

次第

- ◆ 2021年度 第2四半期 業績説明
- ◆ **2021年度 通期業績予想**
- ◆ 中期目標に関して
- ◆ 質疑応答

全体

- 半導体は活況、計測も緩やかな回復が続く
- 生産高拡大に向け 事業部門を超えて対応

半導体

- 高水準の需要が続くものの、長納期化の観点から短期的な調整があるものと予想
- 生産拡張対応、必要な研究開発を継続

計測

- 引き続き モノづくり需要の回復が続く
- ICE需要は継続するが、縮小リスクを踏まえEV化への対応、非自動車分野への拡販を推進

- 業績予想の前提は“半導体は活況”、“計測は緩やかな回復基調が続く”
生産高の拡大は全社レベルの施策を以て実現する
- 半導体では 高水準の需要は続くが、
長納期化の観点から、短期的な調整もあり得るという前提を維持
- 計測では、モノづくり需要の回復が続くとの想定に立つ一方で
ICE(内燃機関自動車) 需要の 中期的な縮小リスクを想定し、
EV化対応や 非自動車分野への拡販を推進

2021年度 業績予想



連結業績 (億円、円)	2020年度			2021年度			
	上期	下期	通期	上期	下期予	通期予	前期比
売上高	451	520	971	615	665	1,280	+32%
営業利益 (営業利益率)	63 (14%)	93 (18%)	156 (16%)	129 (21%)	136 (20%)	265 (21%)	+70%
経常利益	64	95	159	130	135	265	+67%
当期純利益	47	75	122	96	97	193	+59%
1株配当			104円			168円	+64円

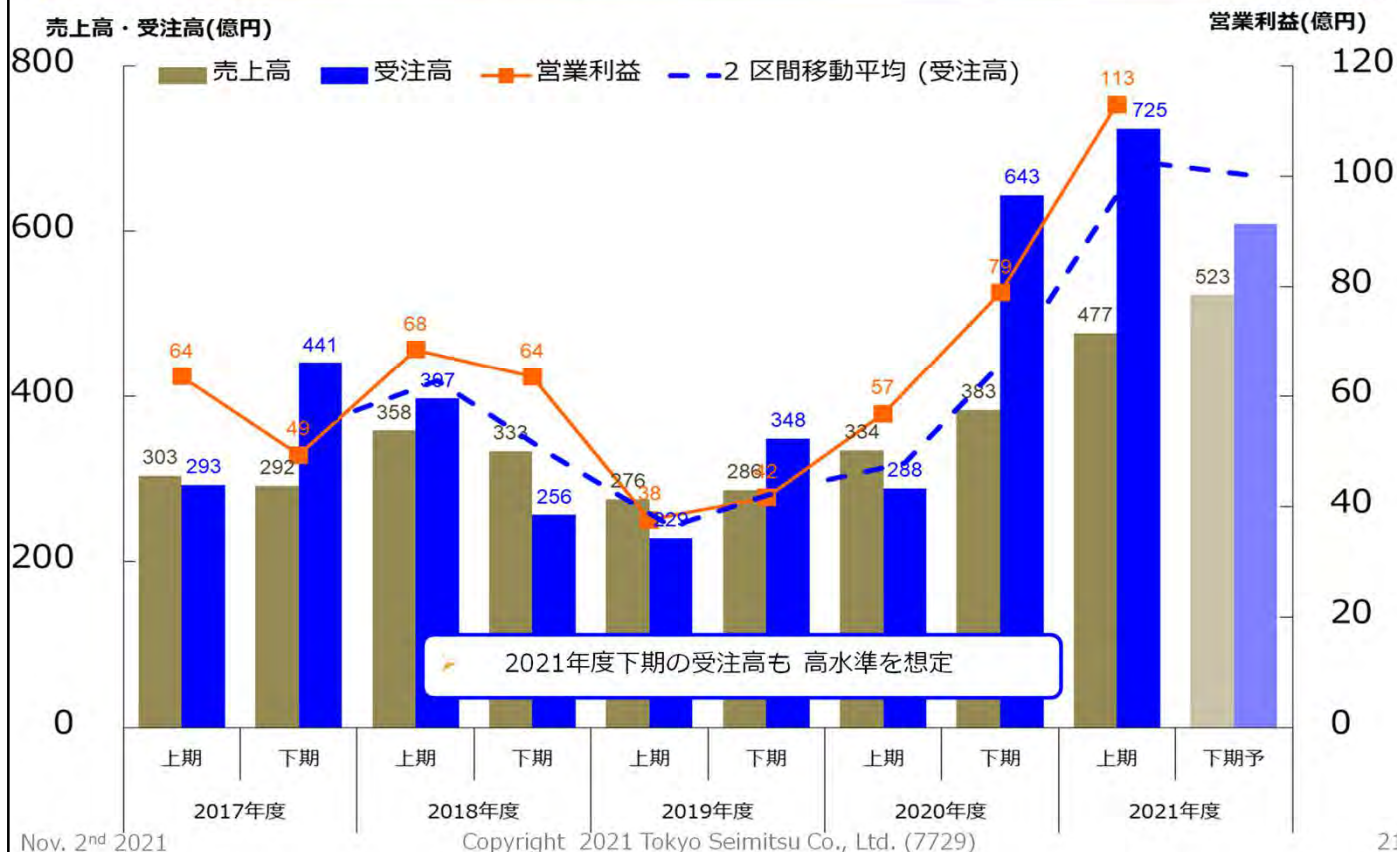
セグメント別業績予想

(半導体)	受注高	288	643	932	725			
	売上高	334	383	717	477	523	1,000	+39%
(計測)	受注高	108	131	239	160			
	売上高	117	137	254	138	142	280	+10%

- 2021年8月3日に公表した通期業績予想ならびに配当予想を修正
- 半導体・計測共に 前回予想対比で増収を予想

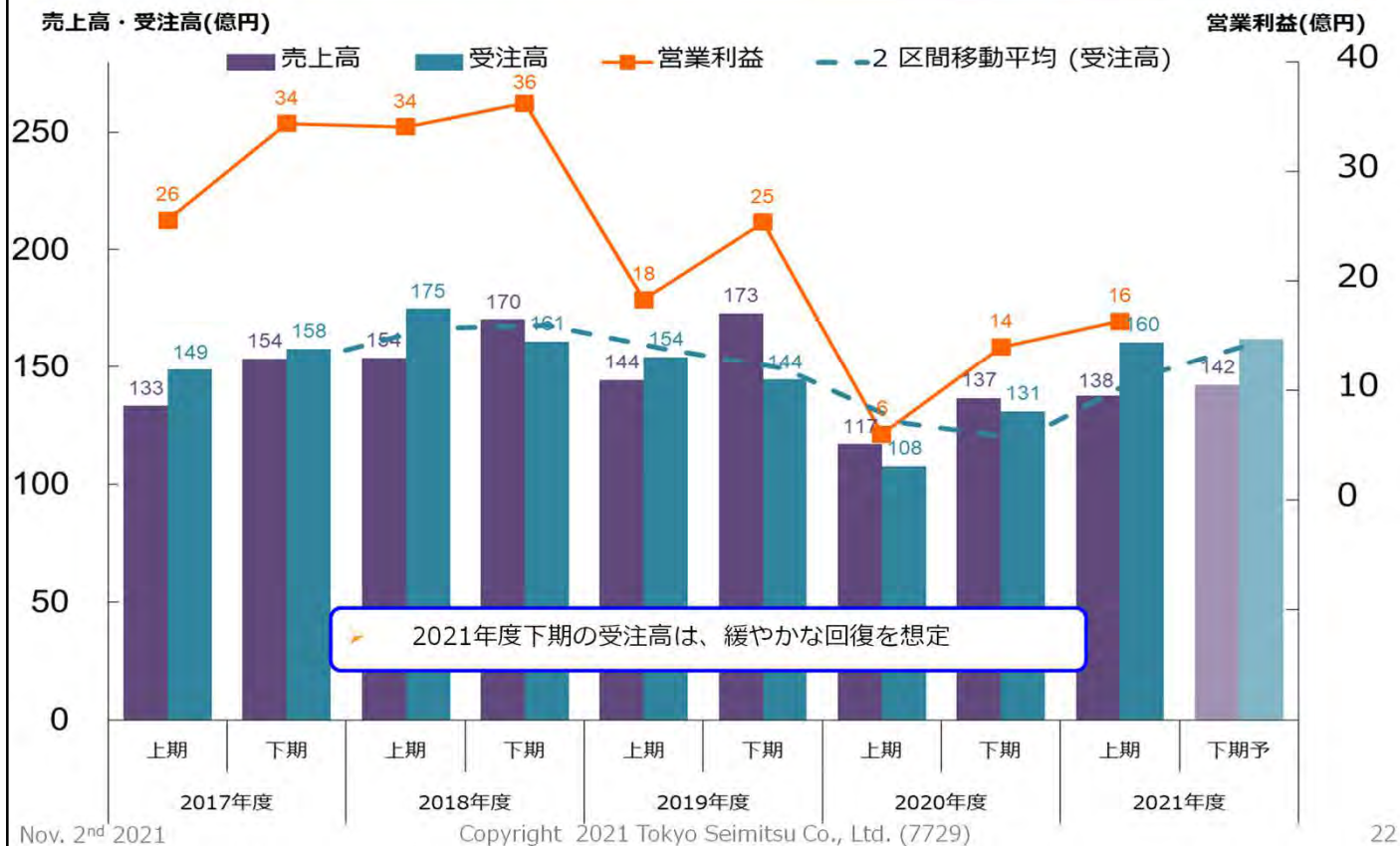
- 8月公表の2021年度通期業績予想を修正
引き続き現 中期目標 (営業利益220億円)の達成を見込む
- 2021年度年間配当を修正、1株168円(中間、期末ともに 1株あたり84円)
(詳細は本日の適時開示をご覧ください)

半導体 - 売上高・受注高 見込



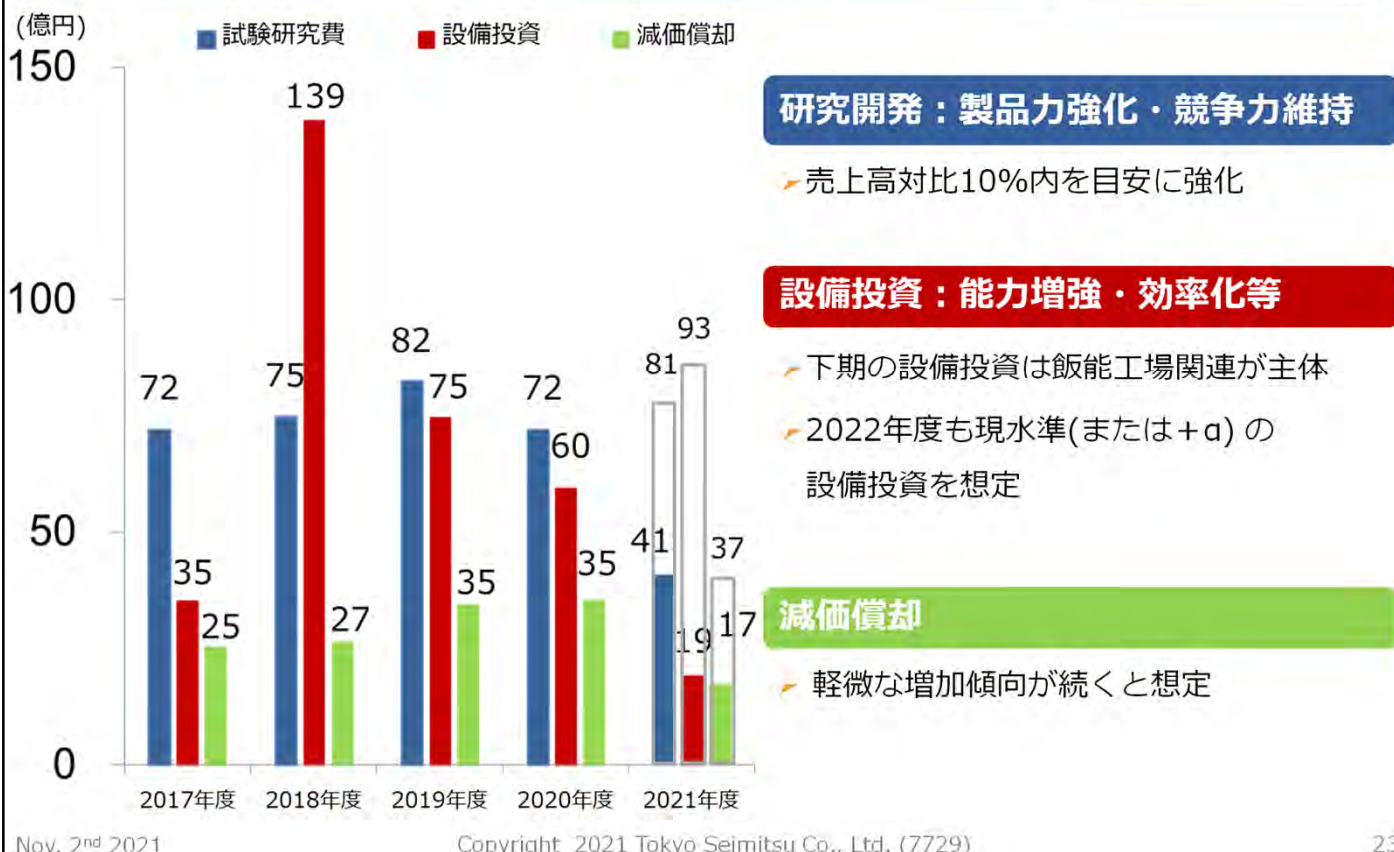
- 2021年度下期の受注高は 短期的な調整はあるものの 高水準になると想定
- 下期予想の製品構成比：売上高、受注高ともに 検査装置 6割、加工装置4割

計測 - 売上高・受注高 見込



- 2021年度下期受注高は、緩やかな回復基調で推移すると予想
- 下期予想の製品構成比： 売上高、受注高ともに
汎用計測 7割、自動計測・充放電 3割

試験研究費、設備投資、減価償却



- 2021年度の 試験研究費、設備投資、減価償却計画 (今年度計画に一部変更あり)
- 試験研究費： 上期実績41億円、 通期計画81億円、 売上高の10%以内を目安
- 設備投資： 上期実績19億円、 通期計画93億円(飯能工場の支出が主因)
2022年度も 飯能工場への投資などを主因に 2021年度と同水準
またはプラスアルファの設備投資を想定
- 減価償却： 上期実績17億円、 通期計画37億円、
今後も増加するが、軽微であると想定

次第

- ◆ 2021年度 第2四半期 業績説明
- ◆ 2021年度 通期業績予想
- ◆ **中期目標に関して**
- ◆ 質疑応答

- 2021年度 通期予想の通り、現中期目標は達成を想定
- 次期中期目標(2022年度-2024年度)を策定し、2022年5月に公表を予定
- 次期中期目標のポイント
 - 両セグメントの技術シナジー強化
 - 半導体：生産キャパシティ拡張、新技術・新分野への展開
 - 計測：NEV、非自動車など新たな計測分野を開拓
 - ESGの強化、サステナビリティ経営



- 2021年度を最終年度とする 現 中期目標は達成を見込む
- 2022年度以降の3か年に向けた新たな中期目標の策定を決定
2022年5月の通期決算開示に併せて公表する予定
- 次期中期目標においてポイントと考える部分は記載の通り
- 前提となる市場環境の考え方に変更なし

ヘルスケア



手術ロボット、遠隔診療

暮らし



スマート家電、オンライン授業

モノづくり



スマートファクトリー

仮想空間と現実空間の融合 (Society 5.0)



自動車



EV(電気自動車)、自動運転

金融



オンライン決済、仮想通貨

インフラストラクチャー



電子政府、イントラネットワーク

ロジスティクス



自動搬送倉庫、ドローン配達

エネルギー生成



エコロジーと効率を両立した発電

- 2022年度以降の中期目標の前提は、
ソサエティ5.0 (仮想空間と現実空間の融合)により、あらゆる人とモノが
結びつく世界であり、記載のような新技術が世に広まることで
半導体の成長が続く というもの

- Society 5.0 (5Gを軸とする仮想空間・現実空間の融合)により、半導体・電子部品の 桁違いの大量生産/大量消費の時代へ
- 微細化・大口径化の限界、後工程SPEの重要性を更に高める
- 業績拡大の軸は、引き続き 開発強化と生産キャパシティ拡張



- 半導体製造装置セグメントでは
デバイスの大量生産、大量消費の時代の到来、前工程の技術革新の 制約により
後工程装置の重要性が 生産性・機能の両面で高まるとの前提を維持

次期 中期目標の前提(計測)

- 内燃機関需要は減少してゆく
- 一方、NEV バッテリとモータの測定需要、自動化(IoT)に大きな期待
- 業績拡大の軸は、製品ラインナップ/参入分野の拡大と、海外売上



- 計測機器セグメントでは
内燃機関測定需要減少の一方、 EV バッテリー、パワートレイン測定需要が拡大
- さらに当社として 非自動車・成長業界への取り組みを行い
この両輪で業容を拡大させる、との前提を維持
- また、計測技術を半導体製造装置に応用していき、
新たなソリューションを構築する

次第

- ◆ 2021年度 第2四半期 業績説明
- ◆ 2021年度 通期業績予想
- ◆ 中期目標に関して
- ◆ **質疑応答**



<https://www.accretech.jp/>
<https://ir.accretech.jp/ja/index.html>



補足資料

セグメント別業績推移



(百万円)	会計期間				四半期							
	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期 上期	2021年3月期				2022年3月期			
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
受注高	半導体	65,335	57,709	93,181	72,450	12,903	15,932	28,683	35,662	33,853	38,596	
	計測	33,573	29,866	23,878	16,042	5,754	5,022	6,420	6,681	7,858	8,184	
	合計	98,909	87,576	117,060	88,492	18,657	20,955	35,103	42,344	41,711	46,781	
受注残高	半導体	27,670	29,182	50,619	75,375	26,653	24,610	38,188	50,619	61,676	75,375	
	計測	9,165	7,782	6,301	8,573	7,898	6,855	6,783	6,301	8,018	8,573	
	合計	36,836	36,965	56,920	83,949	34,552	31,465	44,971	56,920	69,694	83,949	
売上高	半導体	69,117	56,198	71,745	47,693	15,432	17,975	15,106	23,231	22,796	24,897	
	計測	32,403	31,728	25,359	13,770	5,638	6,066	6,491	7,163	6,141	7,629	
	合計	101,520	87,927	97,105	61,464	21,070	24,041	21,597	30,395	28,937	32,526	
営業利益	半導体	13,195	7,915	13,565	11,296	2,832	2,850	2,525	5,358	5,328	5,967	
	計測	7,025	4,366	1,996	1,631	344	255	510	886	666	965	
	合計	20,221	12,282	15,562	12,927	3,176	3,105	3,035	6,245	5,995	6,932	
営業利益率	半導体	19.1%	14.1%	18.9%	23.7%	18.4%	15.9%	16.7%	23.1%	23.4%	24.0%	
	計測	21.7%	13.8%	7.9%	11.9%	6.1%	4.2%	7.9%	12.4%	10.9%	12.7%	
	合計	19.9%	14.0%	16.0%	21.0%	15.1%	12.9%	14.1%	20.5%	20.7%	21.3%	

損益計算書



(百万円)	会計期間				四半期							
	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期 上期	2021年3月期				2022年3月期			
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	101,520	87,927	97,105	61,464	21,070	24,041	21,597	30,395	28,937	32,526		
売上原価	60,430	53,452	60,190	36,758	12,863	15,433	13,504	18,389	17,484	19,273		
売上総利益	41,090	34,474	36,914	24,706	8,207	8,608	8,093	12,005	11,453	13,253		
販売費および一般管理費	20,869	22,192	21,351	11,778	5,030	5,502	5,057	5,760	5,457	6,320		
営業利益	20,221	12,282	15,562	12,927	3,176	3,105	3,035	6,245	5,995	6,932		
営業外収益	688	255	540	202	194	118	106	214	135	66		
営業外費用	104	177	235	138	25	153	205	-55	110	27		
経常利益	20,805	12,360	15,867	12,991	3,345	3,070	2,936	6,515	6,019	6,971		
特別利益	58	57	1,354	13	6	-	149	1,198	13	0		
特別損失	419	1,712	1,074	0	-	293	108	672	-	0		
税引前利益	20,443	10,705	16,147	13,004	3,351	2,776	2,977	7,041	6,033	6,971		
法人税等合計	5,719	3,598	3,978	3,367	886	573	712	1,806	1,664	1,702		
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,665	7,156	12,175	9,607	2,470	2,207	2,264	5,232	4,352	5,255		
1株当たり当期純利益(円)	352.92	171.89	293.83	234.37	59.30	52.98	54.73	127.55	105.98	128.42		
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益(円)	350.23	170.72	291.43	232.11	-	-	-	-	-	-		

貸借対照表



(百万円)		2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (2Q末)
流動資産	現金及び預金	41,518	34,640	43,657	50,788
	売上債権※1	36,146	29,633	30,946	32,441
	在庫	29,995	30,152	32,886	35,944
	その他	2,434	3,345	4,025	2,995
	合計	110,094	97,771	111,516	122,169
固定資産合計		47,478	48,777	50,039	50,189
総資産		157,573	146,549	161,556	172,358
流動負債	買入債務※2	26,328	16,895	23,062	26,596
	その他	14,620	12,121	16,233	19,325
	合計	40,948	29,017	39,296	45,921
固定負債合計		9,220	7,857	5,482	4,463
負債合計		50,169	36,874	44,778	50,385
純資産合計		107,403	109,674	116,777	121,973
負債・純資産合計		157,573	146,549	161,556	172,358
有利子負債合計		11,415	9,641	7,581	6,535
自己資本比率		67.3%	73.9%	71.4%	69.9%
自己資本利益率(ROE)		14.4%	6.7%	10.9%	-

※1: 電子記録債権、契約資産を含む

※2: 電子記録債務を含む

各種費用, キャッシュフロー



(百万円)	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (上期)
試験研究費	7,469	8,234	7,193	4,073
設備投資	13,872	7,477	5,950	1,925
減価償却費(のれん除く)	2,655	3,450	3,516	1,712

(百万円)	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期 (上期)
営業活動によるキャッシュフロー	12,932	5,965	22,062	14,627
投資活動によるキャッシュフロー	-13,952	-6,116	-5,191	-1,825
フリーキャッシュフロー	-1,020	-150	16,871	12,802
財務活動によるキャッシュフロー	5,443	-6,375	-8,282	-5,979
現金及び現金同等物に係る 換算差額等	-223	-159	429	308
現金及び現金同等物の期末残高	41,290	34,605	43,624	50,755

従業員数推移



注) 上記従業員は、正社員と期末時点の臨時従業員の単純合算